

田子の浦部屋の紹介

師匠：田子の浦親方

本名：関山伸一
年齢：37歳
出身：鹿児島県出水

*現役の四股名は隆の鶴で現役最高位は前頭8枚目です。現役中は長いもみあげがトレードマークでしたが同時期もう一人長いもみあげをトレードマークとする鬨牙（現千田川親方）と顔がそっくりでよく間違われるので、お互いにいやだったそうですが今は無二の親友で仲がとてもいいようです。

大関 稀勢の里

本名：萩原 寛
年齢：27歳
出身：茨城県牛久

略歴：初土俵 2002年3月
新十両 2004年5月
新幕内2004年11月
新大関 2012年1月
三賞：9回 金星：3個

稀勢の里は出世の勢いが稀な速さだったので稀勢の里と命名されました。牛久の稀勢の里の後援会は珍しく牛久市役所内にあります。

幕内 高安

本名：高安 晃
年齢：23歳
出身：茨城県土浦

略歴：初土俵 2005年3月
新十両 2009年11月
新幕内 2010年7月
小結 2013年9月
三賞：1回 金星：1個

高安は日本人の父、フィリピン人の母の間に生まれたハーフです。平成生まれの十両第一号、幕内第一号、三役（小結）第一号とがんばっています。高安と同じ日本人の父、フィリピン人の母の間に生まれたハーフで歳も同じ関取の舂の山も高安の後をつけてきています。二人のフィリピンの母は対照的で高安のおかあさんは高安並みに大きな人です。舂の山のおかあさんはスリムな人です。体型は正反対ですが元気なことでは二人とも同じです。

幕内 若の里

本名：古川 忍
年齢：37歳
出身：青森県弘前

略歴：初土俵 1992年3月
新十両 1997年11月
新幕内 1998年5月
小結 2000年11月
関脇 2001年1月
十両優勝：4回
三賞：10回 金星：2個

若の里は大きなけがを何度もしており何度か十両まで落ちていますが、四回ほど十両優勝をしております。十両優勝賞金は200万円なのでただでは起きない若の里と言われていました。同期には昨年引退した高見盛（現振分親方）がいますが、出身が同じ青森で中学時代から相撲界に入ってもずっとライバル同士の仲だったそうです。

幕内 隆の山

本名：ハベル・ホヤル
年齢：30歳
出身：チェコプラハ

略歴：初土俵 2001年11月
新十両 2011年7月

隆の山は痩せすぎていて体脂肪率が5%ですが本人はこのことをよく自慢しています。娘が一人います。名前は「まいあ」でチェコでも使える名前のように。「まいあ」は父親と違ってよく食べる子で三歳前ですが五歳ぐらいに見えます。男の子でないのが残念です。

優勝賞金

幕内 1000万円 十両 200万円
三勝賞金 200万円

給与の額（月額）横綱273万7000円 大関227万8000円 三役164万3000円 幕内127万円
十両100万5000円

褒賞金（十両以上であれば給与の基本給にプラスされる金額）

- ① 序の口から勝ちと負けの差、たとえば10勝5敗なら5勝分が報奨金として1勝につき0.5円が積み立てられます。負け越しは報奨金が付きません。
- ② 幕内優勝：30円（全勝優勝は50円）金星：10円
※褒賞金を4000倍にして毎月の給与にプラスになります。



国際ロータリー第2790地区第12分区

松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2001回 例会 2014年2月25日（火）

- 国際ロータリー会長 ロンD. パートン
- 第2790地区ガバナー 関口 徳雄
- 第12分区ガバナー補佐 渡辺 敏弘
- 松戸北ロータリークラブ会長 児山 守治
- 松戸北ロータリークラブ幹事 平田 洋一
- 例会日 - 毎週火曜日12:30より（第1例会18:30）
- 例会場 - 松戸市八ヶ崎1-10-6 「びわ亭」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サンライズハイム101
- TEL/FAX - 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

<第2001回：例会プログラム>



12:30 点鐘	児山守治会長
ロータリーソング斉唱	
【♪我等の生業】	
12:33 お客様紹介	崎谷延好会長 外
12:35 会食	
13:00 例会再開	
会長挨拶・報告	児山守治会長
13:10 幹事報告	平田洋一幹事
13:15 卓話：「大好きな相撲について」	大川高明会員
13:25 【委員会報告】	
■社会奉仕委員会	高崎卓哉委員長
本日の社会奉仕基金発表	
■ニコニコ委員会	小林弘委員長
本日のニコニコ発表	
13:30 点鐘	児山守治会長

<会長挨拶：児山守治会長>

皆さん こんにちは。

関東地方でも雪国のような積雪が有り被害に遭われた方々は大変な苦労をされたとおもいます。復旧作業も進んでいるようですが農家の方々は今後とも苦労が絶えないと思います。幸いこの地域は大きな被害もなくほっとしております。

今日は会長挨拶に少し時間をいただいたので米山梅吉の生涯の続きを研究したいと思います。

前回梅吉が渡米したところまでお話ししました。

当時、日本からアメリカに渡って勉強する青年は人数も少なく苦労が多かった。そのような青年を受け入れる為にスクールボーイという制度が作られていました。スクールボーイとは部屋を与えられ週1ドルで学僕として働き、仕事の合間に通学するという制度でした。また皿洗いの仕事をすれば週3ドルになりました。スクールボーイは日本人など外国人だけでなくアメリカ人もいました。ここで働いてお金を貯めて入学しお金がなくなれば休学して働いて復学する。と言う訳で学習する為に普通の学生の二倍の時間が掛かりました。

梅吉はカリフォルニア州のベルモンドアカデミーに入学しました。ここは大学ではなく高等学校でした。二十歳を過ぎた日本の青年がアメリカの少年に混ざって勉強したのである。この高等学校を卒業すると梅吉はオハイオ州のウェスレアン大学に進学しました。これは福音会のハリス監督の推薦によるものでした。ハリス監督は17歳の頃、南北戦争に一兵卒として参加しました。そのため梅吉のハリスに対する尊敬は一生続きました。それは後になって青山学院の中のハリス館によってもそれがわかる。この時、梅吉はハリス監督から洗礼を受けたものと思われま。

梅吉はウェスレアン大学を終了した後、ニューヨーク州のチェスター大学とシラキュース大学でも勉強しました。学んだ学問は主に政治学でした。たえず国家のことが頭にあり、アメリカで勉強して立身出世したいというよりも国のため、世の中のために役に立ちたいという気持ちが強かったのである。梅吉の私益優先よりも公益優先の思想が後年「信託銀行の創立」「日本ロータリークラブの創立」という公益事業の発展となって花咲くのである。



アメリカでは政治学を学び、文学を味わい日本に帰ったら新聞の仕事に従事しようと思っていた。

一方、養父の藤三郎はアメリカ留学などに関心はなく、早く日本に戻って旧家である米山家をついで欲しいと思っていた。梅吉も米山家に籍は入れたものの養父の藤三郎との関係は距離感があった。アメリカ留学したことへの引け目があり少し煙たい存在であった。梅吉は話題の合わない養父に手紙を書くにも張り合いがなく疎遠になっていたが、将来のこともあり米山家に手紙を書くように努めた。

梅吉より手紙が届くようになり安心した藤三郎は、娘の春子を青山学院に入学させた。19歳になった春子にアメリカから帰ってくる梅吉にふさわしい教育を受けさせようという親心であった。明治26年シカゴで開かれた世界大博覧会で日本出品の説明係りを務めたあと明治28年帰国した。8年間アメリカで学んだ梅吉は28歳になっていた。

続きはまた次回にいたします。

本日はここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

<幹事報告：平田洋一幹事>

◆市原ロータリークラブ

「創立50周年記念式典及び祝賀会」開催の案内が来ています

2014年6月14日(土) ホテルニューオオタニ幕張 15:00 点鐘

50周年おめでとうございます



<卓話：大川高明会員>

「大好きな相撲について」

田子の浦部屋は昨年12月25日に鳴門部屋から名前が変わりました。場所も松戸の八ヶ崎から両国に移っております。

名前が変わった理由ですが、日本相撲協会は何年か前「野球賭博問題」、「八百長問題」、「暴力問題」等不祥事が相次ぎ、世間を騒がせました。国から公益団体の剥奪をちらつかされ、いろいろな改革を進め対応してきましたが、あと一つ「年寄名跡問題」残っていました。過去から名跡については高額でのやりとりが問題視されておりました。

公益財団法人認定申請を1月に控えていた日本相撲協会はこの問題に対し名跡を協会が預かり、名跡を譲るときは協会が関与することとし、昨年12月20日までに名跡を協会に提出するよう通達をしました。多くの名跡は提出されましたが、何人か提出できない親方がありその一つが鳴門でした。鳴門の名跡は4年前に亡くなった元横綱隆の里のおかみさんが保有しており、部屋を譲ってほしいとお願いしていましたが、最後まで話し合いがつかず、20日に提出できませんでした。このままですと現鳴門親方は協会を首にされ、部屋も消滅することになり、また、1月場所に関取たちが出場できなくなります。

そこで現鳴門親方は一昨年亡くなった元幕内久島海の遺族が保有していた田子の浦の名跡を譲ってほしいと交渉し、12月25日に譲って頂く事となり、首にならずに済みました。ただし鳴門部屋は消滅しました。このことを12月の25日協会に報告し、その日のうちに了承を得、田子の浦親方となりました。鳴門部屋の稽古場が使えなくなった親方は1月場所を控えていた状況もあり、稽古は休まずできるようにと、親方が両国の三保が関部屋を借りる段取りを取り、翌日26日朝稽古の後、三保が関部屋へ関取・スタッフ総勢16名は引っ越しました。三保が関部屋は昨年65歳で定年になった増位山の部屋でした。こういう経過で鳴門親方は田子の浦親方に名前が変わりました。

(次ページ)

